



ソフラ株式会社

SOFLAクラウドサービス

「新しいパブリッククラウドサービス」をスタート

SOFLAブランドサイトで新しい販売スタイルも推進

IBM iクラウドサービス名
SOFLAクラウドサービス

開始年
2014年

実績
15社(公表数)

IBM i用データセンター数
1拠点(姫路)

提供中Powerモデル
Power8、Power9、Power10
(計15台以上)

提供中IBM i OS
IBM i 7.2~IBM i 7.5

Windowsクラウドの有無
あり

Linuxベースクラウドの有無
あり

**IBM iクラウドセンター
設置場所**



SI&クラウドの 独自のサービスを展開

ソフラは2014年にSOFLAクラウドセンターを建設し、IBM iクラウドサービスをスタートさせた。

同センターは、JDCC（日本データセンター協会）のTier3やISO27001（情報セキュリティ）などの高度な基準をクリアした地下1階・地上4階の施設。SIビジネスを展開してきた同社のような企業が、既存データセンターの「間借り」ではなく、独自にセンターを建設したのは「異例中の異例」とも言えたが、その狙いについて代表取締役社長の井本裕順氏は次のように説明する。

「建設を構想した当時（2010年代初め）、日本のクラウドサービスは情報系システムの移行が始まった段階でしたが、クラウドサービスの考え方である“システムの所有から利用へ”の動きは市場全体に徐々に浸透し、やがては基幹系システムに及ぶと見ていました。しかし基幹系となるとシステムの安定運用は必須であり、お客様の改修・拡張のご要望には即座に対応する必要があります。他社データセンターの間借りでは数々の制約があるため、またお客様に理想的な形でクラウドサービスをご提供するには自社センターしかなく、建設に踏み切りました」

同社は、SIで構築した顧客システムをクラウドセンターに収容しサービスを提供す

るという独自のクラウドビジネスを展開している（ほかにハウジングサービスも提供中）。「そうした取り組みによって初めて、システムの企画から設計、構築、運用、アプリケーション保守までのすべてを一貫してご支援することが可能になります」と、井本氏は強調する。そのために、SOFLAクラウドセンターに隣接する自社ビルに開発・運用部門を配置し、「お客様システムにいつでもすぐにアクセスできる体制を整えてい

図表 付加サービス一覧

運用サービス	定期バックアップ ※
	フルバックアップ
	テープ交換
	保管サービス ※
	各種オペレーション
監視サービス	バッチ適用サービス
	障害復旧サポート ※
	Ping監視 ※
	死活管理 ※
	システムログ監視 ※
レポートサービス	サーバーリソース管理
	メール通知サービス (障害時)
	運用報告サービス
	監視報告サービス
	預かり資産 管理報告

※印は基本バック

ます」という。

クラウドサービスの新しい販売スタイル 「SOFLAブランドサイト」をスタート

同社は今年1月にクラウドサービス用としてPower10を2台購入した。P10クラスのマシン2台で、導入時は4コアずつ搭載し（8コアまで拡張可能）、メモリは計384GB、ディスクは計20TBという大容量のリソースを積む。これでセンター内のIBM Powerは、従来からのPower8・9・10マシンと合わせて「20台近く」になったという。

「当社ではこれまでに1社に1台の割合でIBM Powerをご提供してきましたが、最近の需要増と、より小規模なシステム構成とHA・DRなどのより高度なサービスのご要望にお応えするために、新たにマシンを導入しました」と、井本氏は話す。

Power10による新しいクラウドサービスでは、CPUリソースを0.1コア刻みで、メモリやディスクも「お客様システムに最適なサイズ」で提供する。またLPARによる区画の設定やHA・DRも「柔軟に構成可能」という。新しいPower10によるサービスについて井本氏は、「当社にとってサービスのグレードを大きく向上させる、新しいパブリッククラウドサービスの始まりです」と胸を張る。

同社では新しいクラウドサービスの提供に先行して、Web上で「SOFLAブランドサイト」と呼ぶサイトをオープンした。そこで「クラウドサービスの新しい販売スタイル」(https://brand.sofla.co.jp/)を推進する計画という。

同サイトでは、システム開発支援環境「SOFLA」を動画やデモで紹介するととも

図表 2 SOFLAパッケージシリーズ

SOFLA i R.1	一般卸業ERPシステム
SOFLA i R.2	電子部品卸業ERPシステム
SOFLA i R.3	食品卸業ERPシステム
SOFLA i R.4	食肉卸業ERPシステム
SOFLA i R.5	鉄板加工卸業ERPシステム
SOFLA i R.6	アパレル品卸業ERPシステム
SOFLA i R.7	贈答品卸業ERPシステム
SOFLA i R.8	製造卸業ERPシステム
SOFLA i R.9	日配品卸業ERPシステム
SOFLA i R.10	機械工具卸業ERPシステム
SOFLA i R.11	管工機材卸業ERPシステム
SOFLA i R.12	冷蔵・冷凍倉庫業ERPシステム
SOFLA i MSP	医療機器卸業ERPシステム
SOFLA i R.K	財務会計システム

に、「得意先マスター設定」や「受注管理」といった機能をユーザーが操作できる環境で提供し、気に入ればツール一式をダウンロードし、そのまま本番利用へ進められるようにする。

「SOFLA」の中核をなす設計/開発ソリューション「SOFLA AG」は、業務系基幹システムに必要な機能を取り揃えた統合開発モデルで、画面上の設定だけでプログラムオブジェクトを自動生成し、アプリケーションを開発できるノーコード・ツールである。

同社ではSOFLAブランドサイトの第1弾サービスとして、「SOFLAパッケージ」シリーズの1つである「食肉卸業ERPシステム」を今年10月に公開する予定。「SOFLA

パッケージ」シリーズはSOFLA AGに基づくサービスで、ユーザーは画面上の設定だけで保守・改修が行える。

同社は現在、Linux対応の設計/開発ソリューション「SOFLA AG Linux版」を開発中である（2025年に完成予定）。現在のSOFLA AGとあわせて使うことにより、「SOFLA AG上の設定だけで、IBM iまたはLinuxのプログラムを生成できます」という。

「SOFLA AG Linux版の導入によって、オープン系のクラウドサービスをより低コストで提供可能になります。クラウド市場の広範囲な拡大を見越してLinux版の開発とサービスの拡充を進める計画です」と、井本氏は抱負を語る。📍